

2015年度ヨーロッパ（英国・オランダ）保健学研修報告

大西真由美¹・大石 和代¹

保健学研究 29 : 105-110, 2017

Key Words : 国際保健学実習, リプロダクティブヘルス, 保健学, 英国, オランダ(2016年8月29日受付)
(2016年9月23日受理)

I. はじめに

長崎大学医学部保健学科では、諸外国における人々の健康課題の特徴とその解決のための方策およびサービスの展開方法について学習することを目的に、選択科目として「国際保健学実習」を実施している¹⁻⁴⁾。参加学生が科目履修登録を希望しない場合には、「ヨーロッパ保健学研修」として位置付けている。「実習」と「研修」の違いは、①参加後の課題レポートの提出、および②事前学習から実習終了後までの実習参加状況について評価するか否かである。2015年度は、学生の希望により、英国およびオランダにおいて、2016年2月27日－3月6日の日程で「国際保健学実習」/「ヨーロッパ保健学研修」（以下、研修）を実施したので報告する。

II. 事前準備

1. 参加学生募集

新学期オリエンテーション（2015年4月）において、研修に関し、説明を行い、その時点で数名の参加希望があった。2015年10月に、あらためて参加希望を募ったところ、看護学専攻3年生5名、4年生1名から研修参加希望があった。また、保健学専攻・助産師養成コース2年生からも1名の参加希望があり、最終的に学生7名および引率教員2名で実施することとした。看護学専攻3年生3名が「実習」として、それ以外は「研修」として参加した。

2. 研修内容および渡航に関する調整

表1の通り、英国およびオランダにおける現地引率者

表1. 2015年度ヨーロッパ（英国・オランダ）保健学研修プログラム（2016年2月27日－3月6日）

日程	研修施設・場所	研修内容
2月28日（日）	午前 ジョン・スノウの井戸 ナイチンゲール博物館	ジョン・スノウの公衆衛生学への貢献について学ぶ、 ナイチンゲールの功績と看護の発展について学ぶ。
	午後 自由行動	文化視察
2月29日（月）	午前 St. Mary's Hospital	講義および施設見学により、National Health Service (NHS) の概要 および最近の動向について理解を深めると共に、英国における出産 ケア、リプロダクティブヘルス・ケア、Vulnerable people へのアプ ローチについて、NHS の観点から学ぶ。
	午後 Portland Hospital	施設見学により、英国における私立病院の出産ケアについて学ぶ。
3月1日（火）	午前 NSPCC London Headquarter (児童虐待防止協会)	講義により、児童虐待防止協会による虐待防止と社会的に脆弱な家 族への支援活動について学ぶ。
	午後 SureStart Children's Centre (子育て支援センター)	講義およびプログラム見学により、地域における子育て支援センター による子育て支援活動について学ぶ。
3月2日（水）	午前 ロンドン → アムステルダム移動	
	午後 助産師クリニック	産褥看護師として活動する日本人看護師の案内により、地域助産師 としてグループ開業する助産師から講義を受け、オランダの助産師 活動および助産師教育について学ぶ。
3月3日（木）	午前	
	ビュートゾルフ (ハーグ事務所) 午後	ビュートゾルフ看護師および連携している家庭医からの講義、事例 紹介および意見交換を通して、ビュートゾルフの役割・機能および 実際の活動について学ぶ。
3月4日（金）	午前 安楽死協会	講義により、オランダにおける安楽死について学ぶ。
	午後 助産師家庭訪問	希望者2人のみ助産師家庭訪問同行
3月5日（土）	出発まで自由行動	文化視察

1 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

らと具体的研修内容について調整を行った。2014年度までの研修内容を基に、2015年度は新たに英国における子育て支援センター（SureStart Children's Centre）およびオランダにおけるビュートゾルフ（包括的在宅ケア組織）に関する研修を加えた。

参加学生には、必要に応じてパスポートの取得について助言を行った。

研修参加費用は、基本的に参加学生の自己負担であるが、学業成績およびTOIECの点数により、長崎大学海外留学奨学金制度ならびに保健学科後援会助成金からの支援を受けた学生もいた。

3. 事前オリエンテーション

研修参加予定者に対して、2016年1月7日に第1回事前オリエンテーションを実施した（表2）。後述する事前学習に関する説明ならびに研修内容・参加手続きの概略を説明した。参加手続き内容として、研修参加にあたり学生本人と保護者宛の研修説明書と参加「承諾書」を配布し、「承諾書」に学生本人と保護者の署名・捺印の

上、2015年2月22日までに提出することとした。「承諾書」には研修参加にあたり海外旅行保険に加入することを前提とする旨を記載し、学生は各自で任意の海外旅行保険に加入した上で、加入済みであることを証明する書類のコピーを提出するよう指示した。また、入学時に加入を勧奨している学生総合共済保険ならびに学生賠償責任保険への加入状況についても確認した。参加学生は、事前に保健学科学務係で海外渡航申請手続きを行うよう指導した。また、危機管理対策として、長崎大学「学生の国際交流に関する危機管理対応マニュアル」ならびに「保健学科・国際保健学実習等における事故・不測事態への対応」を基に、海外渡航に関する注意事項および事故等の不測事態への対応について十分に説明を行った。

4. 事前学習

表3のテーマに従い、研修参加学生らが事前に調べ学習を行った成果を発表し、共有する形で事前学習を実施した。

表2. 2015年度ヨーロッパ（英国・オランダ）保健学研修事前オリエンテーション

1) 研修スケジュール、研修内容、英国・オランダ滞在中の注意
2) 研修参加「承諾書」について
3) 研修中の安全管理（英国・オランダ治安状況、外務省海外安全情報、海外旅行保険加入含）
4) 研修中の健康管理（外務省「在外公館医務官情報」、厚生労働省「海外渡航者のための感染症情報」含）
5) 事前学習内容（表3参照）
【配布資料】
・ 日程表、研修内容、ホテル information、ホテル周辺地図、海外旅行保険加入申込書
・ 長崎大学「学生の国際交流に関する危機管理対応マニュアル」
・ 保健学科「国際保健学実習等における事故・不測事態への対応」
・ ロンドンにおいて日本人医師が診察を行なうクリニック一覧
・ 研修先概要・地図

表3. 2015年度ヨーロッパ（英国・オランダ）保健学研修事前学習

月日	時間	内容	主な参考文献
2月22日（月）	14:45-15:15	英国の概要	
		オランダの概要（長崎とオランダの歴史的つながり含）	
	15:15-15:45	英国の保健医療制度（NHS含）	5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14)
	9:00- 9:30	英国における妊娠・出産・産褥ケア	15, 16, 17)
		英国の看護・助産師教育制度	12, 18, 19, 20, 21, 22)
	9:30-10:00	オランダにおける尊厳死・安楽死（他国・地域との比較を含）	23, 24, 25, 26, 27, 28, 29)
	10:00-10:30	オランダにおける保健医療サービス（ビュートゾルフ含）	30, 31, 32, 33, 34)
	10:30-11:00	オランダにおける妊娠・出産・産褥ケア	35, 36, 37, 38, 39, 40, 41)
	11:00-11:30	オランダにおける看護職教育（看護師、助産師、産褥看護師）	

Ⅲ. 研修の実際

今回初めて訪問した施設を中心に報告する。

1. 英国

1-1. 児童虐待防止協会：National Society for the Prevention of Cruelty to Children (NSPCC)⁴²⁾

今回は、NSPCC による活動の概略⁴¹⁾の他に、最近始めた取り組みである服役中の親に対する支援活動について紹介があったので、報告する。

親が服役中の子どもにとって重要なことは、①親が健康であること、②子どもと関係がある全ての人々が早期から健全な関係性を築くこと、③子どもの養育者に対するケア・支援が確保されていること、④子どもの発育のために必要な安全かつ良い刺激を与えることができる生活環境整備（特にホームレスの子どもの場合）である。親が服役することで、親子の関係構築が途切れてしまうことにより、子どもの将来に渡る健康リスクが高くなり、その関係性を後で取り戻すことができないことによる負の影響を回避する努力が必要とのことであった。特に出生から幼少期に、母親の服役によって愛着形成が健全に行われなかった場合に、母親が出所後にあらためて愛着形成することが困難であることから、具体的には、下記の通り、基本的ケア・支援を実施している。

- A. 未成年の子どもをもつ親（特に母親）が服役することになった場合：他に子どもを養育する大人がいない場合等、必要に応じて子どもを care center で養育し、少なくとも親と月1回の面会ができるようにする。
- B. 母親が妊娠中に服役することになった場合：服役中も必要な妊婦ケアを受けることができるように調整・支援する。
- C. 上記Bを経て、服役中に出産した場合：刑務所内のケア・ユニットで母子が一緒に過ごすことができるように調整・支援する。

こういったケア・支援を実施するきっかけとなったのは、例えば、子どもの人生の中でいずれかの時期に父親が服役した場合、子どもたちの3分の2が後の人生のいずれかの時期で服役しているといった調査結果によるものである。NSPCC では、ケア・支援を実施しているのみならず、様々な介入の効果を縦断的に評価するための研究資金と研究能力を備えており、根拠に基づいた介入を実施している。また、一旦開始した介入であっても、効果がないことが証明された場合にはその介入を中止する。元来刑務所は主として男性が服役することを前提に作られているため、女性の生活にとって必要な環境が整備されておらず、ましてや幼い子どもとの生活のためには適切な環境とはいえない。しかし、上記のような子どもに及ぼす長期的な負の影響を回避するために、刑務所内の環境改善のために活動することも NSPCC の役割とのことであった。

1-2. 子育て支援センター：SureStart Children's Centre⁴³⁾

アメリカ合衆国で開始された子育て支援プログラムである Right Start⁴⁴⁾を基に、英国では約10年前から5歳までの子どもを対象とした地域子育て支援プログラムとして始まった。日本の児童館のような役割と社会経済的に脆弱な家庭の子育て支援サービス機能を持つ。主として、①母子保健活動を担う保健師 Health visitor による妊娠期から子育て期間までの健康支援、②乳幼児の早期教育（言語発達トレーニング等）、③社会経済的に脆弱な家庭に対する家族支援といった活動を、国のサービスとして無料で提供している。今回、研修参加者らが訪問した Around Poplar Children's Centre は、約2,000人の乳幼児人口を抱える地域であるが、人口に応じて政府から予算措置がされている。例えば、乳幼児の早期教育は、年収300万円以下の世帯で2歳未満の子どもがいる場合には、15時間/週のケアを受けることができる。また、社会経済的に脆弱な家庭に対する家族支援では、教育心理学の専門家やソーシャルワーカーらが家庭訪問により、体罰に依らない躾をする方法を親と一緒に実践してみる、といった活動が実施されている。

Children's Centre は、子育てに関する one stop service の提供場所として、親と子どもの絆を強め、躾の方法について親と共に考え実践し、育児に関する様々なカウンセリング・相談に応じている。センターに来てもらうことで、子どもと家族の社会的孤立を防ぐことを目的としている。また、各センターによって提供するプログラム内容や方針も異なるが、それは Children's Centre としての理念は同じであっても、地域の実情に合わせて必要なサービスを提供しているためである。例えば、Around Poplar Children's Centre はロンドンのTower Hamlets という地域にあり、この地域では人口の約50%をバングラデシュ出身者とその家族が占め、その他にも東欧やカリブ海諸国出身者が多く居住する。従って、カウンセリングや家庭訪問において、出身国の習慣や子育てに関する価値観に関する理解は不可欠である。特にバングラデシュ出身の女性は積極的に外出しないため、家庭訪問等のアウトリーチ活動によって、家庭内で問題が深刻化しないように、また彼らが地域社会から孤立しないように支援することが必要である。あるいは、23歳以下の若い母親に対する週1回のプログラムでは、紙おむつの支給をインセンティブとして参加を呼びかけるといった工夫をしている。また、この地域では飲酒と薬物使用による依存症や家庭内暴力といった問題も多く、家庭訪問の際には必ず二人一組で訪問するようにしている。近隣や地域住民から児童虐待の疑い等の通報があった場合には、48時間以内にセンターから家庭訪問し、状況を確認するようにしている。加えて、社会経済的に脆弱な世帯が多いため、裁縫やコンピュータスキルの職業訓練や就職支援、英語を母国語としない人々のための英会話教室、古着の再利用やバザー等といったコミュニティ活動もこの

地域では家族・世帯支援として重要である。

2. オランダ

2-1. ビュートゾルフ（包括的在宅ケア組織）

2006年の創業からオランダの在宅ケアを担う一大組織に発展したビュートゾルフについては、日本でも「訪問看護と介護」第19巻6号において特集が生まれ、紹介されている^{30, 31, 32)}。提供する在宅ケアが低コストであるにも関わらず質が高いことが評価されているのみならず、優秀な看護職が働きたいと思う事業所としても評価が高く、オランダにおける最優秀雇用者賞を受賞したことも注目されている。上司やリーダーは存在せず、フラットなマネジメント体制で、またケースマネジメントとケア・支援提供の分業をせず、ジェネラリストとして地域看護師がケア・支援の全プロセスに責任を持ち、細切れの機能別分業ではない包括的ケアの提供をしている。

一チーム最大12人の地域看護師が約40~60人の利用者支援にあたっている。オランダ全土に750以上のビュートゾルフチームが存在しており、その内の3分の1程度はリハビリテーション専門職を含んでいる。在宅ケアに必要な住宅改造に関しては、作業療法士が責任をもって対応している。また、ビュートゾルフの関連事業として、家事援助、青少年を対象としたケア組織、精神疾患をもつ利用者対応を専門とするケア組織、ショートステイやホスピス機能をもつ組織等がある。

オランダでは概ね人口3000人毎に家庭医（General Practitioner: GP）が配置されており、ビュートゾルフと協働している。ビュートゾルフで働く看護職はレベル3（日本の介護福祉士レベル）のうち看護行為の一部を担うことができるヘルスケアワーカーとレベル4以上の看護職（レベル5は、学士レベル）である。オランダの他の在宅ケアを担う組織で働く看護職はほとんどレベル3であることを考えると、ビュートゾルフで働く看護職の専門性の高さが伺える。従って、ビュートゾルフの看護職に対する家庭医の信頼も厚い。また、現在オランダでは、在宅ケアの需要の更なる高まりと質保証の観点から、レベル5以上の看護職で高等職業教育機関が実施する1年間の地域看護専門コースを修了した地区看護師の教育・養成に関して注目が高まっている。

IV. 今後の課題

今回ならびに2014年度までの研修における学生の参加状況については、長崎大学医学部保健学科ホームページも参照していただきたい⁴⁵⁾。

研修内容は、これまでの実績を踏まえつつ、新たな研修先を加え、様々な角度から学生が問題意識を持ちやすいテーマについて考えられるように工夫をしている。例えば、英国では「出産ケア」をNHSの側面とプライベート病院の側面から考えることや、移民が多いロンドンにおいて様々な社会文化的背景をもつ人々の子育て支

援を考えることである。また、オランダでは、地域開業助産師の活動から「生まれる」ことに関わるケア、安楽死協会やビュートゾルフの活動から「高齢者看護」、[ターミナルケア]や「死」に関わるケアを考えるといったことである。ただ、「国際保健学実習」を担当する教員のネットワークだけで研修先を拡大・確保していくには限界もあり、第三者による研修プログラムの調整や研修受入先への謝金等の経費も発生することになる。一方、大学の予算は削減され、大学からの留学等に関する助成金の規模も縮小傾向にあり、研修参加の希望はあっても経済的理由によって参加を断念している学生がいることについては、今後の検討課題である。

文献

- 1) 大西真由美, 中尾理恵子, 川崎涼子, 大石和代: 平成21年度英国リプロダクティブ・ヘルスならびに地域保健研修報告. 保健学研究, 22(2): 71-77, 2010.
- 2) 大西真由美, 大石和代: 2010年度リプロダクティブ・ヘルスおよび公衆衛生に関する英国研修報告. 保健学研究, 23(2): 45-49, 2011.
- 3) 荒木美幸, 川崎涼子, 新田章子, 大西真由美: リプロダクティブヘルスならびに地域保健に関するヨーロッパ研修報告 (国際看護学実習II). 保健学研究, 26: 23-30, 2014.
- 4) 西原三佳, 大西真由美: 2013年度リプロダクティブ・ヘルスおよび公衆衛生に関するスイス・英国研修報告. 保健学研究, 27: 55-59, 2015.
- 5) 近藤克則: イギリスにおける医療の質評価の動向. JIM. 15(3): 232-236, 2005.
- 6) 近藤克則: 社会的共通資本としての看護の役割と責務. 日本医療・病院管理学会誌, 48(2): 35-45, 2011.
- 7) 平岡公一: イギリスの高齢者保健福祉サービスの動向 - ブレア政権下での政策展開 -. 保健の科学, 47(8): 559-565, 2005.
- 8) 白瀬由美香: イギリスにおける地域保健サービスの形成. 大原社会問題研究所雑誌, 586-587: 34-46, 2007.
- 9) 松田晋哉: 英国における近年の医療制度改革. 産業医科大学雑誌, 35(4): 279-289, 2013.
- 10) 西田淳志, 新川祐利: 英国の認知症国家戦略. 老年精神医学雑誌, 24(10): 977-983, 2013.
- 11) 高鳥毛敏雄: イギリスにおける公衆衛生の歩みと新たな展開. 公衆衛生, 78(1): 6-19, 2014.
- 12) 白瀬由美香: イギリスの地域看護師の歩みと医師職との関連. 公衆衛生, 78(1): 20-23, 2014.
- 13) 岡田忠克: イギリスにおけるソーシャルサービスの発展の歴史. 公衆衛生, 78(1): 32-36, 2014.
- 14) 堀真奈美: イギリスにおける医療情報の活用の課題と展望. 公衆衛生, 79(9): 619-623, 2015.
- 15) 小澤淳子: 英国における助産師のガイドライン. 助

- 産師, 62(1) : 72-74, 2008.
- 16) 小澤淳子: 特集: 世界の助産師からの学び – イギリスの助産技術の発達とそれを支えるもの –. 助産師, 2(4) : 20-23, 2008.
 - 17) 中嶋有加里: 英国における正常出産のガイドライン. ペリネイタルケア, 28(2) : 89-97, 2009.
 - 18) 曾根志穂, 高井純子, 大木秀一, 斉藤恵美子, 田村須賀子, 金川克子, 佐伯和子: イギリスにおける看護師の教育制度の変遷と看護職の現状. 石川看護雑誌, 3(1) : 95-101, 2005.
 - 19) 岩本里織: 英国における保健師の教育制度と増員計画 (第1報). 保健師ジャーナル, 70(6) : 508-591, 2014.
 - 20) 網野寛子: 英国の看護師労働と免許登録・更新制度. 看護管理, 24(4) : 366-372, 2014.
 - 21) 水野仁子, 安藤広子: 英国の助産教育基準からみた日本の助産師教育に関する一考察. 岩手県立大学看護学部紀要, 14 : 61-71, 2012.
 - 22) 成瀬和子, 石川陽子: 英国における外国人看護師の受け入れ制度と教育. 国際保健医療, 28(1) : 13-20, 2013.
 - 23) TODAY FEATURE REPORT: オランダ安楽死法可決と安楽死の実態 – 医療職の倫理とは –. Nursing Today, 16(11) : 70-73, 2001.
 - 24) 柏木哲夫: 安楽死と緩和医療. 最新医学, 56(8) : 116-118, 2001.
 - 25) 盛永審一郎: オランダ・ベルギー・ドイツにおける「安楽死」に関する現状 (1). 研究紀要 (富山医科薬科大学一般教育), 30 : 27-35, 2003.
 - 26) 白井正夫: オランダの問いかけ – 安楽死選択の土壌 –. 保健婦雑誌, 57(6) : 494-495, 2001.
 - 27) 川本起久子: 「尊厳ある死」に関する考察. 保健科学研究誌, 2 : 25-39, 2005.
 - 28) 牧田満知子: 境界をめぐる論争 – オランダ安楽死法における「耐えがたい苦痛」の一考察 –. 兵庫大学論集, 18 : 133-142, 2013.
 - 29) 岩尾總一郎: 諸外国における尊厳死制度. Clinic Magazine, 41(5) : 17-21, 2014.
 - 30) 西村周三: Buurtzorg は日本の医療・介護の「文化」を変えるか – 制度の違いを乗り越えて今こそ学ばべきこと. 訪問看護と介護, 19(6) : 449-453, 2014.
 - 31) 宮崎和加子: Buurtzorg との違いに学んだ今日日本で取り組むべきこと – 訪問看護団体として視察して. 訪問看護と介護, 19(6) : 454-458, 2014.
 - 32) 片山智栄: Buurtzorg に会ってここを学んだ! こう進化した! “そのとき” “その場” でのタイムリーなケア実現への第一歩. 訪問看護と介護, 19(6) : 459-461, 2014.
 - 33) 松浦志野: オランダの在宅ケア組織 Buurtzorg を訪ねて. Community Care, 15(2) : 64-68, 2013.
 - 34) 山路憲夫: Buurtzorg はなぜ急速に広がったか – オランダの地域包括ケアの新たな担い手を考える. 社会保険旬報, 2525 : 18-23, 2013.
 - 35) 松岡悦子: オランダの助産婦と出産. 助産婦雑誌, 46(82) : 47-52, 1992.
 - 36) 小出久美: オランダでの参加における連携 – コラボレーションの仕組み, 助産雑誌, 57(12) : 54-59, 2003.
 - 37) 小出久美: オランダにおける助産師の役割. 助産師, 62(4) : 10-14, 2008.
 - 38) 奥山絢子: オランダのマタニティケアの現状 – ハーグ市プロノボ病院の助産プラクティスでの経験を通して. 助産雑誌, 63(11) : 996-1002, 2009.
 - 39) 滝沢美津子: オランダにおける自宅出産と時代の潮流. 助産雑誌, 58(3) : 83-89, 2004.
 - 40) 滝沢美津子: オランダの周産期ケアシステムの特徴 – 男性助産師・産褥専門看護師・開業員の働きを垣間見て. 助産雑誌, 58(2) : 85-90, 2004.
 - 41) 滝沢美津子: オランダの助産師教育の実際 – 助産師学生の実地実習場面への参加を通して. 助産雑誌, 58(1) : 77-82, 2004.
 - 42) National Society for the Prevention of Cruelty to Children: NSPCC. About the NSPCC. http://www.nspcc.org.uk/what-we-do/about-the-nspcc/about-the-NSPCC_wdh71771.html (accessed August 28, 2016)
 - 43) SureStart Children's Centre. <https://www.gov.uk/find-sure-start-childrens-centre> (accessed August 28, 2016)
 - 44) Right Start. <http://www.rightstartservices.com/> (accessed August 28, 2016)
 - 45) 長崎大学医学部保健学科. 国際交流. http://www.am.nagasaki-u.ac.jp/kouiki-kango/international/europe_2016.html (accessed August 28, 2016)

Report of reproductive health and public health tour in the United Kingdom and the Netherland

Mayumi OHNISHI¹, Kazuyo OISHI¹

1 Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences Health Sciences

Received 29 August 2016

Accepted 23 September 2016